

桜 (30.4.2)

皆様、平成 30 年度がスタートしました。

私も 2 年目を迎え、クック船長のような舵取りで学校運営ができたかと、切なる願いを持って新年度の始めに決意を新たにしているところでございます。

「僕らはきっと待ってる君と会える日々を さくら並木の道の上で手を振り叫ぶよ」と森山直太朗の歌を詩って送別をしてから 10 日経ち、次の写真のとおり本校のさくら並木が例年のアーチを描きました。昨年の入学式の彩と同じで、いつもの年より 10 日程度早い桜の満開の様子です。特に今年は、冬の寒さが厳しく、凜とした姿を見せてくれています。

「ソメイヨシノは、冬の厳しい寒さを自分の体感じたあとに暖かさを感じると『春がきた』と思い、花を咲かせるという用心深い性質を身に付けています」<田中 修 著『植物はすごい 七不思議 篇』から引用>。

人間も凜とした大輪を咲かせるためには、「厳しさ」の後の「温かさ」が必要な気がします。





